



テーマ「新興国日本から先進国へのみちのり」（要旨:2分以内でお読みいただけます）

### 西洋文明への開国

西欧の近代化以降、世界の非“近代化”の国々は、近代化にあたり、バリアとして法律や社会制度に“規制”を設け、漸進的に近代化を推進した。

新興国とは、バリアの部分的開放“自由化”をてこに、非“近代化”国から経済の“近代化”をめざす国々であり、日本は世界の先端をいく新興国であった。

### 近代化の中核と規制社会

“近代化”の核心は、規制がなく開かれた社会、市場型経済、情報公開であり、それが到達点である。日本はすでに“新興国”を卒業しているが、諸制度では依然新興国に近い規制社会である。さらに、明治以来人びとに沁みついた新興国モードは、一朝一夕では払しょくしがたい。

試みに、「1980年代以降の規制緩和・民営化・自由化の代表例」は17ある。政府の規制改革会議では約1万4千項目あるとしている。規制緩和はいまなお、官民で格闘中である。

### 新たな“開国” — 新興国から先進国へ

先進国たるには、経済的自立に並行して、真に開かれた社会を実現し、社会・経済と一体化した独自の文化をアイデンティティとして確立し、歴史観、外交政策、防衛方針において、リーダーシップを発揮し、世界の国々から存在に敬意を払われることが必要だ。

日本はいま、旧新興国から離陸し、新たな開国を果たして先進国づくりの道を歩まねばならない。

### グローバル人材の果たす役割

新興国から先進国へ変身することがグローバル化の主意であり、第二の開国とグローバル化とは同義語といえる。明治維新同様、第二の開国の原動力をグローバル人材に託すことになる。

グローバル化とは、規制がなく開かれた社会、市場型経済、情報公開の保証された社会になることであり、グローバル人材とは、その環境で「自立・責任・決断」を際立って実践できる人材である。

### “先進国”日本の役割

先進国とは、世界を納得させる価値観、文化、それを支える経済力を先んじて示せることである。新たに登場する“先進国”はそれを越える“なにか”を提示し世界を牽引するものでなければならない。

受動的姿勢でなく自ら調和を達成する精神が、世界を牽引すべき先進国としての役割になる。長い歴史と文化を学びかつ共有してきた中国、韓国とも相たずさえ、アジアの国ぐにと力をあわせ、欧米型先進国からの新たな発展型を提示することができる。それらの国が相互に交流をかさね、平和構築能力でアジアの近代化に貢献し、アジアの発展と世界へ貢献するアジアを実現できたとき、日本は第二の開国を果たし先進国化を実現したといえる。

### “ふたたび輝ける日本”をめざす

ふたたび輝きをとり戻せば日本は、次世代、次々世代に明るい未来の展望をあたえることができる。

（要旨 了）